

大学出版

The Association of
Japanese University Presses

No.132

2022.11

秋

【特集】 学術書を読み継ぐ

—— オンデマンド出版・デジタル送信・古書

しごとく柔軟なアーカイブ

—— 出版システムの多様な流通と継承 柴野京子 1

未来の出版を駆動する両輪

—— 学術系文庫と出版を継承する技術 園部雅一 6

絶版本はデジタルの夢を見るか？

—— 国立国会図書館・個人向けデジタル化資料送信サービス 福林靖博 11

古書店と学術書

—— 専門店という営みから考える 河野高孝 16

誄詞 石井和夫氏へ 竹中英俊 21

【連載】 何年経っても忘れられない、編集者の一冊《7》

真嶋潤子 編著

『母語をなくさない日本語教育は可能か—— 定住二世見の二言語能力』 川上展代 表2

大学出版部ニュース 22



一般社団法人
大学出版部協会

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

真嶋潤子編著

『母語をなくさない日本語教育は可能か——定住二世児の二言語能力』

川上展代（大阪大学出版会）



カバー画を手がけたのは、実は大阪大学の事務職員。ゲラを読み込み、様々なルーツと個性をもつ子どもたちが各々の場所でのびのびとカラフルに咲く様子をイメージして描かれた。本書の英語版(2022年刊行)では、植物が少し成長した別バージョンが描き下ろされている。装幀：菊井恵子印刷：(株)遊文舎 [大阪大学出版会・2019年 / A5判上製・336頁・定価6160円]

新型コロナウイルス感染症の流行前、まだ気兼ねなくフィールドワークに出かけられた頃だった。本書の編者となる真嶋潤子先生から、両親の就労のため日本で育ち、日本の学校に通う外国をルーツとする子どもたちの話を伺った。両親は言語上の問題で学校の先生とうまく意思疎通ができない。先生たちも手探りで日々の指導に追われている。その狭間で母語も日本語も中途半端になってしまった子どもたちは、学校にも家庭にも心を開けなくなっている。早く日本語を習得すればよいという話ではない。故郷への愛情や両親との関係性を途絶えさせずに二言語を習得できれば、彼らは能力を十分に伸ばして社会で活躍できる大人になれる。——現状へのもどかしさと打開への熱意、そしてこれまでに出会ってきた多数の子どもたちへの慈愛がにじんだ涙をじんわりと浮かべながら語る真嶋先生の姿が、今も目に焼きついている。事実はあまりにも複雑だが、着実な一歩が大切。本書では母語と日本語の習得状況、学校での日本語指導、アイデンティティ育成に配慮した二言語能力評価手法の提示を主眼とした。また当初の予定にはなかったが、マルチリンガルに成長した「成功例」も急遽紹介することにした。伝えたい思いが強すぎて、原稿枚数が膨らんでいく。教育現場の人々、教育行政に携わる人々に具体的に役立ててもらえるような評価資料や経験知、事例を織り込んで、読み手に伝わる文章に整えていく。著者たちの粘り強いリライトを経て、外国ルーツの子どもたちへの教育に携わる大人たちに向けたエールを詰めこんだ本ができあがった。

二〇二一年三月に行われた真嶋先生の最終講義は、コロナ禍ですっかり定着したオンライン形式が幸いして、世界各地から愛弟子たちが画面上に集まった。先生が積み重ねてきた温かい信念に満ちた日本語教育の継承を画面越しに実感しながら、隔たりを超えて思いを伝えることへの責任と、手にする誰かにしっかりと届くような本づくりの使命を改めて心に刻んだ。

しぶとく柔軟なアーカイブ——出版システムの多様な流通と継承

柴野京子（上智大学文学部教授）

今年の五月、東京大学で新たに発足した寄付講座の記念シンポジウムが行われ、パネリストとして参加した。前年まであったDNP学術電子コンテンツ研究の後継にあたる講座で、講談社とメディアアドゥが東大のチームとともに、次代の本のデザイン開発に取り組むという。「新しい本・新しい読書とデジタルアーカイブ」と題するパネルディスカッションは、披露目にふさわしく和やかなムードに終始したが、このテーマで大学のシンポが行われ、当たり前の人々が集うことには感慨があった。というのも、私が研究を始めた二〇〇〇年代の半ばころ本を「アーカイブ」とみることが、必ずしも一般的ではなかったからである。

出版流通が抱える問題の本質は既刊書籍にある。日本では年間七〜八万点の新刊が発行されるが、新刊市場ではおよそその十倍の点数がイン・コマースで流通している。強弱はあっても、新刊には一定の露出が保証されるが、委託

期間がすぎて既刊になれば機会は激減する。ただ注文を待っているわけにはいかないのなら、出番を工夫しなければ在庫は回らない。常に返品の可能性を孕んだ本の取引では、店頭に出ている商品を市場在庫として管理する必要もある。図書館との比較では、しばしば「ストックとフロー」という説明がなされるが、商業出版の流通はただ「流れて」いるのではなく、ストックとフローのバランスの中で成立させなくてはならない。

だから一般書に比べて市場が限られ、かつ商品寿命の長い学術書において、特約店や常備寄託といったシステムが考案されたのは偶然ではない。確かに図書館とは違って、書店にある本は売ればそこにはなくなるが、あらかじめ店舗と銘柄を決めて補充できるよう契約を結ぶことで「常にそこにある」状態は保つことができる。タイトルの安定は、知識の系譜の維持につながる。それも難しくなれば、

文庫や叢書のような簡易な装丁に差し替えて裾野を広げ、定着をはかる道もある。

前置きが長くなったが、このような視点から本の流通を捉えるために、ストック、フローではなく「アーカイブ」にヒントを見出そうと考えたのは、あながち間違いいではなかったと思う。だが冒頭に記したように、かつての「アーカイブ」的関心は、もっぱら字義通りの記録文書か、デジタルアーカイブが当初めざした貴重資料のデジタル保存・活用にあった。ありふれた複製物である一般の本がそこに含まれるという認識は、例外的なものにすぎなかった。

アーカイブとしての出版システム

この状況を一新した直接の契機は、グループブックス問題だったといえるだろう。出版物をスキャンして簡便にデジタル保存し、インターネットを介して提供する事業は、シンプルゆえにその衝撃も大きかった。と同時に、いったんデジタルデータにされてしまえば、オリジナルがもっていた稀少性の有無が不問となることも知らされた。そして、印刷されたものでもデジタル化すれば「アーカイブ」なのだという認識が、ごく自然に普及した。

ただしもう少し冷静に歴史をたどれば、先駆けになる事例は、ほかにも挙げることができる。青空文庫（一九九七年）や、国立国会図書館近代デジタルライブラリー（二〇〇二年）はその代表で、ちょうどそのころ刊行されていた『季

刊・本とコンピュータ』（トランスアート市ヶ谷分室、一九九七―二〇〇五年）には、新しい技術を用いて本を復元したり展開したりする試みが数多く紹介されている。しかしそうした行為は、何もデジタルに端を発することでもない。前述のとおり、本のアーカイブ的な継承は、アナログの時代からいろいろな形で存在したのである。

著作物の継承は、出版物の形式や流通のスタイルを移しながら、さまざま手段で行われる。雑誌に掲載された論文や作品は単行本にまとめられる。さらに年月を経て、ペーパーバックに姿を変えて再刊されるものもあれば、全集企画や復刻版に収録されるものもある。近年では、解散した創文社が複数の出版社に版權を譲渡して、刊行中のハイデッカー全集を東京大学出版会が、その他の書目を講談社がオンデマンドでラインナップすると報じられた。これは特殊な例だが、文庫本を筆頭として、出版業では日常的に版權の出版する権利がやりとりされ、刊行形態とともに新たな出版社に引き継がれることが珍しくない。

さらにはそうした過程で生まれた新版を、別の出版物としてとらえることも学術的には意味がある。著者が存命であれば加筆修正の可能性があり、物故者であれば定本の検討、編集、解説、新訳など複数の手が加えられることがある。これらは対象に向けた各時点での新たな解釈であり、それ自体が研究対象となる。

リプリントによる継承と二次流通

ところで版を動かす慣習は、日本でも以前からみられたようだ。伝統的な出版業者では、複数の出版社が版を共有し、エリアを決めて本を出したり、版木や紙型を市場で売買することがよくあった。関東大震災で版が焼失して以降はそのような取引も減ったと思われるが、代わって登場したのが、円本や文庫本である。改造社の経営危機から発明された一冊一円の全集本は、新中間層に向けた手軽な教養パッケージとして人気を博し、出版界を一時的に潤した。あまりの粗製乱造に批判も多かったが、その急先鋒として知られた一九二七年創刊の岩波文庫も、価格の安いリプリントという点では似た性質をもっている。

日本の近代出版業は、明治期に西欧から輸入された雑誌ジャーナリズムと学術とが両輪となり、新旧業者の混交によって成立した。その中で、博文館（一八八七年創業）のように雑誌を軸としながらも書籍を刊行する総合出版社が

現れ、流通をもリードしていくことで、さまざまなジャンル、および形式の出版物が重層的に一体化する空間が構築された。文庫や円本誕生の背景にはこの構造があるが、ペーパーバックやリプリントのような出版物が、岩波的な良書主義ならずとも、むしろ経済性を原動力にコンテンツをつなぐ装置として機能するところは、ベネディクト・アンダーソンが『想像の共同体』で論じた出版資本主義を想起させる。

ついでに言及しておけば、文庫や新書は常備品と類似の構造をもっている。岩波文庫は戦前から補充スリッパを用いたことが社史にも記載されているが、POSシステムが完全に普及するまで、文庫各社の書店配本ランクはスリッパの回収率で決められていた。常備寄託は初期在庫の負担回避がポイントなので単純比較はできないが、一定の商品を切らさずに「常備する」のは同じであり、オペレーションのしかたで、店舗の棚にアーカイブ的な状況を維持しているといえるだろう。

ブリュールと季節画の世界

森洋子

A5判 定価10,780円

ブリュールとの連作「季節画」はどのような醸成されたのか。彩飾写本や版画に描かれた季節の営みや月暦図像との連環を読み解く。



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

<http://www.iwanami.co.jp/>

古書がもつ拡がりと時間

リプリントがコンテンツの再流通なら、よりストレートな二次流通である古書に触れないわけにはいかない。大学周辺に形成される古書店街は、教科書から研究書、一次資料まで、学術と本の切っても切り離せない関係を表している。古書は新刊のように生産手段を持たないので現存するものがすべてだが、個人宅や研究室等に蓄積され、市場に出ていないものも含めてすべてが潜在的な商品になる。

新刊の市場在庫が極めて統制的であるのに対して、社会全体の本をリソースとみなし、交換によって入手可能な品ぞろえを構成していく古書は、新刊市場よりも長いサイクルを射程に置いて機能する。新刊市場は古書を見ないが、新刊の動向次第で役割Ⅱ値打を見極める古書の世界は、より包括的な視野で書物の文脈を紡いでいく。このことが、学術と古書の親和性をさらに高めている。

デジタル化はラスボスカ

学術書のデジタル化については、ジャーナル問題から教科書の電子化まで、あらゆる角度から言い尽くされてきた感がある。コロナ禍以降は、オンライン授業やリモートアクセスの需要が拡大し、また新たな局面に入ったと思われるが、ここではやや視点を変えて、過去の道筋を可視化するものとしてのプラットフォームに触れておきたい。



図 NDLオンラインの検索結果

掲載した図は、NDLオンラインを使って「浅野孝之」という人物の著作を検索した結果である（浅野は私の祖父で、一九四八年に死亡しており、著作権は消滅）。画面にある七点の著作はすべてデジタル化されているが、公開方法は複数ある。単著のうち二点はインターネット公開、主著の『オハイの蔭』（実業之布哇社、一九二五年）のみ館内限定なの、二〇〇七年に刊行された復刻資料に、この本が含まれているためと思われる。また共著三点は公開されていないが、

昨年著作権法改正で可能になった「絶版等資料(アウト・オブ・コマース)」に該当するため、図書館・個人送信が可能である。

特定の著者や著作が流通上で複数の履歴を持ちうることは、本に深く触れてきた者にとっては自明だろうが、一般には知られていない。マニアでも業者でもない多くの人々にとって、目の前にない本にいきつくことは難しく、複数の書店や古書店、図書館を使い分けるには、知識と経験と地の利が不可欠だった。それが研究者に求められる資質のひとつにもなったわけだが、まずOPACが知のリソースを民主化し、次にアマゾンが単行本、文庫版、古書、電子版と可能な限りの選択肢を一画面に並べることで可視化した。ここに図書館横断検索のできるNDLサーチが続く。

既刊書籍の問題は、最終的には電子化をもって解決できるのかもしれない。絶版にするか重版するか悩むこともなく、オンデマンド印刷を使えば、サーバーに置いたバッチャル常備をペーパーバックにすることもたやすい。市場に

あるものは電子の流通ルートで小売や図書館に提供し、国会図書館の電子化資料と合わせれば、相当の確率で国内の出版物は網羅することができる。それはもちろん正しい。ただ一つ考えるべきことがあるとすれば、アクセスの可能性は実際のアクセスを保証しない、その限りでデジタル化はラスボスではない、ということである。本をつないだ数々の工夫は、人がそれに触れるチャンスを開くことに向けられてきた。そのしぶとい柔軟性を一つの思想に育てることができれば、いかなる形でも書物は継承され続けていくだろう。

新刊案内

中澤秀雄 新藤慶 西城戸誠 玉野和志 大國充彦 久保と
もえ書 翻刻 菊判 440頁 定価9680円

戦後日本の出発と炭鉱労働組合 夕張・笠嶋二日記 1948~1984年

日記から、若き炭鉱夫が感じた炭鉱コミュニティの息づかいと現場労働の細部を再現する。戦後復興期から高度成長期に炭鉱で働き、やがて炭労幹部となった一炭鉱夫の記録。

早川純真著 A5判 340頁 定価13750円
「公労協」労働運動の終焉
—労働組合をめぐる政治過程—

総評および官公労組の中核であった公労協の労働運動はなぜ衰退したのかを分析。

竹内真澄著 菊判 410頁 定価7480円

近代社会と個人—個人を超えて—

西洋社会思想史を〈私人〉と個体の同一性と相克を基軸に解説。

御茶の水書房

〒113-0033 文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751

未来の出版を駆動する両輪——學術系文庫と出版を継承する技術

園部雅一（講談社學術文庫・前編集長）

「創文社オンデマンド叢書」始動！

「六月に解散になる創文社様の書籍全点（権利者のご同意あるもの）を講談社學術図書がオンデマンド出版（POD）することが正式に決まりました。詳細は決まり次第このアカウントで告知する予定です。出版界初の試みになります。創文社様の貴重な財産を守るための挑戦に、ご支援をよろしくお願いいたします！」

二〇二〇年六月一日に、「講談社學術文庫&選書メチエ」のTwitterから発信した「tweetは、三一五〇件のリツイート、一四〇件の引用ツイート、四七七六件の「いいね!」をいただきました。発信した私たちでさえ、これほど大きな反響があるとは想像もしていませんでした。

創文社は、一九五一年に創業した、日本の學術出版において、たいへん重要な一角を占めてきた、定評のある老舗

版元です。七〇年になんなんとする歴史のなかで、『神学大全』『ハイデッガー全集』をはじめ、人文・社会科学系の學術書、文学書、山の雑誌『アルプ』や書籍など、約一八〇〇点を刊行しました。

私たちは講談社學術文庫の編集を担う者として、創文社のおかげがえのない財産が入手できない状態のままになってしまふのは、きわめて甚大な文化的損失と考えました。そこで、後先考えずに、創文社の久保井正顕社長（当時）に、「オンデマンドという形にはなるが、是非、読者に継続的に届きたい」と申し出たわけです。

久保井社長からは、二つ返事で「諾」のお言葉をいただき、その後全面的にご協力をいただくことになりました。

二〇一七年に「会社解散のお知らせ」が公表されてから三年後、事業停止目前の二〇二〇年三月というタイミングで、「創文社オンデマンド叢書」のプロジェクトは始動し

たのでした。

二〇一七年以前にも、久保井社長と交誼のあった現編集長の互盛央氏と私は、三者で話し合いを持つ機会がありました。このプロジェクトを思いつくことすらできませんでした。しかし、その後、技術的な可能性を知る機会があり、出版流通の問題が深刻化し、時代は環境への配慮を求めるとして、この挑戦へと踏み出しました。

学術の「大衆化」と文庫版

「創文社オンデマンド叢書」プロジェクトの実際に入る前に、私たちの本業について少し記しておきます。

学術図書編集部が制作しているシリーズのひとつが、「講談社学術文庫」です。同シリーズは、五〇年近い歴史の中で総刊行点数は二七〇〇点以上にのぼり、学術系文庫の重要なシリーズのひとつだと自負しております。

一九七六年に誕生したこのシリーズの創刊の辞には、「学術をポケットにした社会が、人間の生活にとってより豊かな社会であることは、たしかである」とあります。また、「学術がポケットにはいる形で、万人のものになることは、生涯教育をうたう現代の理想である」ともあります。

一九五六年には、「もはや戦後ではない」と言われた日本ですが、当時の大学進学率は一割程度でした。その後、高度経済成長を経て、一九七〇年代には、四割を超え、二

〇二〇年代の五四パーセントまで漸増します。

こういった時代状況に呼応して、学術の「大衆化」に、文庫版が果たした役割は小さくないと思われます。まず、①専門書に比すれば明らかに安価であり、②場所をあまりとらず、③基本図書である古典を揃えており、④既刊書からスクリーニングされた上で文庫化されますので、一定のクオリティも担保されています。

特に、③と④の古典のラインナップと古典の生成という点では、学術系の文庫は重要な役割を果たしていると考えられます。時代の波に洗われ、読者の眼鏡というフィルターを通して、生き残る書物が古典に育つのだと思います。

学術文庫においてもロングセラーの多くが、数千年、数百年と読み継がれてきた本です。ギリシャ哲学、中国思想・文学、西欧の思想・歴史、日本の史書・文学など枚挙にいとまがありません。もちろん、その訳文は読まれる時代に合わせて読みやすい文章に変わっていきまますし、新たな研究の進展によって、上書きされてはいきませんが、そして、文庫化され長く読み継がれていくことによって、現代の著作の中からも、未来の古典が生まれるのだと信じています。こうして、知のバトンがつながります。昨今、役に立たないと思われる「教養」書は、実は縁の下の力持ちとして、文化を支えしているのだと信じて、学術系書籍の編集に携わっています。

予想を超えた反響

さて、「創文社オンデマンド叢書」に話を戻します。

現在、八〇〇点（全刊行点数は、一八一三点。すでに文庫化や他社での再刊が決まった書目を除くと約一五〇〇点が候補だった。刊行中の『ハイデッガー全集』全一〇三巻は、東京大学出版会が引き継いだ）が、すでにオンデマンド版で入手可能になっており（電子書籍は、六〇〇点）、追加でさらに二〇〇点ほどの発売の準備をしており、最終的には一〇〇〇点を越える販売・配信を予定しております。

五〇〇点のオンデマンド版の発売開始は、二〇二一年五月、電子書籍の配信開始は、二〇二二年の二月でした。

「創文社オンデマンド叢書」の発売は、基本的にTwitterと月例の新刊広告の一部スペースを使うのみの最低限の告知で始まりました。また、アマゾンなどのネット書店ではなく、専用の販売サイトでのみの取り扱いにもかかわらず、発売一カ月で『神学大全』（全四五巻三九冊を二割引でセット販売した）が、二〇セット以上売れたのには、私たちも驚きました。いくつかの大学図書館に加え、読者好きの方も購入していました。Twitterで、「神学大全」全巻セット、いきおいで買ってしまった！」というTweetもありました。また、本年秋には、詩人・随筆家の尾崎喜八を記念するイベントがあり、主催者である著作権継承者の方と直接にお目にかかって、『尾崎喜八詩文集』をはじめとする創文

社刊行のオンデマンド版を会場で販売するといったことも決まっております。必要な読者に、必要な本を無駄なく届けることができるようになったのです。

著作権の壁は厚かった

Twitterでの発表から、実際のサービス開始まで一年以上の時間がかかって、五〇〇〇点でスタートしたときには、理由があります。

講談社が発行元になるためには、出版契約書を新たに結び直す必要がありました。創文社の久保井正顕社長は、著者、著作権継承者との連絡、原本の提供など惜しみない協力をしてくださいました。

「創文社オンデマンド叢書」についての「中日新聞」の記事には、「創業者の故久保井理津男氏は『良書は一人歩きする』という言葉を残した。久保井社長は『講談社さんからの申し出を受け、まさにその言葉の正しさを実感している』と喜んだ」とあります。

創文社で継続出版中だった著者・著作権継承者への第一報は、久保井社長にお願いしました。そうして連絡を差し上げた数百名の方々とは、契約締結までスムーズに事が運びました。しかしながら、初期の著者は、物故者も多く、連絡先不明の著者と著作権継承者の数がかなり多く、その搜索は当初の予想をはるかに越えて、難航しました。

元の勤務大学に尋ねる、当該の著者の書籍を刊行中の出

版社に手紙の転送をお願いする、ネット情報を駆使する、地方新聞の訃報欄の記事を探す、時にはご近所さんに聞き込みをしたりと、あらゆる手段を使いました。まるで探偵か刑事の仕事でした。文化庁の制度が、もう少し柔軟であればと恨んだことも多々ありました。

そうして、ようやく一〇〇〇点を越える書目の刊行の目処が立ちました。

おかげさまで、私たちの搜索に快くご協力をいただいた方が多く、困難な作業を続ける励みになりました。特に、他の出版社の方々は、本プロジェクトをご支持くださり、まだ出版業界の連帯を再認識できたことも嬉しいことでした。今後も、機会を見つけては搜索を続けていくつもりです。ご協力をお願いいたします。

また、当事者である著者だけでなく、継承者からも、今回の私たちの申し出に、ほぼ全員が応じてくださり、お礼状までくださる方もおり、感激しました。何通かには、「父が生涯をかけて書いた本が残ることを、仏前に報告いたし

ました」という言葉があり、本当に苦勞が報われました。新しい技術と方法によって、人は消えても、本を残すことはできるのだということを、実感を持って知ることになりました。

技術は編集も変える

あまり知られていないかもしれませんが、講談社学術文庫は、二〇一八年一月に、「講談社学術文庫大文字版オンデマンド」というシリーズをスタートしております。

読者ハガキで一番多い要望が、「文字を大きくして欲しい」というものです。通常のオフセット印刷で、普通文字版と大文字版の両方を提供することは、コスト的にも、書店の棚的にも、容易ではありません。解決方法を模索していたところ、オンデマンド印刷を活用したらいいのではな

いかという結論に至りました。二〇一六年のことです。当時、出会ったセルン(Selene)というスタートアップ企

謎めいた有名・無名の古代人の魅力!

人物で学ぶ 全3巻 日本古代史

新古代史の会編 各2090円

●古墳・飛鳥時代編
卑弥呼・ヤマトタケル・聖徳太子、
額田王、大生部多、余豊璋…。

●奈良時代編
聖武天皇、長屋王、行基、藤原仲麻呂、
坂上郎女、吉志火麻呂…。
(続刊) ●平安時代編 (11月発売)

武者から武士へ

兵乱が生んだ新社会集団
森 公章著 古代に登場した武者が、
武士を形成し武家政権に発展させるまでを描く。2200円

安倍・清原氏の 巨大城柵

鳥海柵跡 大鳥井山遺跡
樋口知志監修
浅利英克・島田祐悦著 よみがえる
北日本の古代城柵。明らかに
なる平泉以前。2640円

奥羽武士団

関 幸彦著 覇を競った武士たちの
出自や活動、系譜など諸相を
掘り下げた初の通論。2420円

足利成氏の生涯

市村高男著 鎌倉府から古河府へ
古河で造り上げた再興鎌倉府。政
権の実態と人物像! 2970円

天守

芸術建築の本質と歴史
三浦正幸著 軍事建築でありながら
社的な造形で多くの人を魅了
する天守を徹底解説。2640円

江戸無血開城の 史料学

6600円
岩下哲典編 明け渡された江戸城!
真の功労者は誰か。関連史料を
丹念に読み解き、通説を覆す。

日記と歴史百科が1冊で便利!
2023年版
歴史手帳 1320円

吉川弘文館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151 / 価格は税込
2022-2023年版 | 出版図書目録 | 呈

同社のCEO豊川竜也氏は、一九六〇年創業の出版流通業のニューブックスの社長でもあります。出版流通倉庫を経営している中で、年々書籍・雑誌の流通の減少を目の当たりにして、DXを活用して出版の流通のあり方を変革していくという大きなヴィジョンを持って起業したのが、セルンです。自社のオンデマンド用の大型レーザープリンターに加えて、オフセット印刷、インクジェット印刷のそれぞれを得意とする会社をネットワークでつなぎ、最適な方法で印刷し、ニューブックスの培った流通力を組み合わせ、出版と流通の最適化を目指しています。

オンデマンド出版自体の存在は、知っていました。必要があつて、フランスのアマゾンで『シュリーマン旅行記』の原書を購入する機会がありました。また、とある先生に誘われて重農主義の勉強会をする時に、テュルゴーの『富の形成と分配に関する諸考察』の原書を手に入れたこともありました。届いたのは、どちらもオンデマンド版でした。もう一〇年以上前のことです。資料的価値のある本がオンデマンドで読めるというのは、とても便利だと感心したことをよく覚えています。

とはいえ、入手したオンデマンド版は、ただ版面をスキヤンした画像を印刷しているだけでしたので、汚れやカスレがそのまま、商品としては受け入れがたいところがあるなという印象を持っておりました。

ここ一〇年のデジタル化の技術進歩には目を瞠るものが

あり、スキヤンした画像の汚れやカスレを補正し、図版などがあつてもほとんどオフセット印刷と同等の再現が可能になっています。また、ネット販売によって、数は少ないけれどもそれを切望する読者に、直接届けることができるのです。従来のオフセット印刷用のPDFがそのままオンデマンドのデータとしても利用できますので、製作費を極小まで抑えることも可能です。

最近はいわゆるパーパスキャンのデータからでも、AIと少しの間で印刷用原版を作成することも可能になっています。こうした技術の進歩があつたからこそ、「創文社オンデマンド叢書」は可能になりました。電子書籍も一〇年前には想像もできないほど、売り上げが増加しました。刊行点数の急激な増加もありますが、それを遙かに上回る伸びを示しています。

私たち書籍編集者の仕事は、書物の中身だけでなく、どのメディアに載せて読者に届けるのかを編集する時代になったのではないのでしょうか。「学術系書籍のデジタル・ファースト」も、もう目の前にあるのかもしれない。

とはいえ、〇から一を生み出す新刊書を継続的に刊行しないかぎり、出版文化の継続はありえませんが、新しい本を書いてもらう。旧書を蘇らせる——その二つの営みが、編集者の仕事の重要な両輪となるの思いはますます強くなるばかりです。不易流行は、学術系出版においても、肝心なのだと思つて気づかされました。

絶版本はデジタルの夢を見るか？——国立国会図書館・個人向けデジタル化資料送信サービス

福林靖博（国立国会図書館利用者サービス部）

二〇二二年五月一九日に開始した「個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）」。著作権法第三十一条第四項に基づき、国立国会図書館（NDL）がデジタル化した資料三十一万点のうち、絶版等の理由で入手困難なもの約一

五二万点を国内在住の登録利用者に無償で送信するサービスです。これにより、著作権保護期間が満了するなどしてインターネット公開されているものとあわせて約二〇九万点を、自宅や職場から閲覧できるようになりました。本稿では、NDLの所蔵資料デジタル化と個人送信の概況を紹介するとともに、今後の学術研究にもたらずものについて考えてみます。なお、ここで言及される意見や感想は筆者個人のもので、所属組織を代表するものではありません。

入手困難な資料はどこから？

NDLは、所蔵資料の利用と提供の両立をはかるため、

二〇〇〇年から本格的に資料のデジタル化に取り組んできました。図書や雑誌といった刊行物のほか古典籍などが、その対象です。近年とくに注力しているのは、二〇〇〇年までにNDLで受け入れた図書のデジタル化です。

「デジタル化された資料はすべて「国立国会図書館デジタルコレクション」で提供されています。まず館内に限定して提供されますが、そのうち市場での入手が可能かどうかの調査を経て入手困難であることが確認されたものは、二〇一四年から提携する国内外の図書館（二〇二二年八月現在で約一三八〇館）に、そして今年の五月からは個人の利用者にも送信されています。現在、図書約五百万点（主に一九六八年までに受入れたもの）、雑誌約八二万点、博士論文・古典籍等約一七万点が送信されています。

では、どのようにして「入手困難であることが確認されるのでしょうか。NDLでは毎年一月から六か月間ほどか

けて、送信候補となる資料を複数の民間の在庫情報データベースに機械的な突合をかけ、紙、電子、プリントオンデマンドを問わず市場で入手可能かどうかの調査を行います。その結果、ヒットしなかったタイトル一覧を送信候補資料リストとして、毎年七月にホームページで公開します。出版関連団体、出版者、著作（権）者等は、七月からの六か月ほどの間にこのリストを確認し、市場で流通しているもの（三月以内に復刻予定のものも含む）や、著者からの送信停止の要請が出ているものについて、NDLに除外を申し出ます。このプロセスを経て翌年一月から送信されますが、送信後も随時、除外申出を受け付けています。

一連の手続は、著作者・出版者・図書館等の関係者が会してNDLのデジタル化資料の利用提供方法等について協議を行う場である「資料デジタル化及び利用に係る関係者協議会」において、二〇一四年の図書館向けの送信サービス立上げの際に定められました。これまで安定的に運用されてきたことから、個人送信にもそのまま適用されることになりました。漫画や商業雑誌も送信対象から除外されていますが、これもその際の協議で合意されたものです。

コロナ禍で進んだ法改正

個人送信は、直接的には二〇二二年五月一日に施行された改正著作権法により可能となったのですが、その法改正の背景に今般のコロナ禍があったことは言うまでもないで

しょう。二〇二〇年の春から夏にかけて、一時は国立国会図書館を含めた全国の九割を超える図書館が休館するという未曾有の事態が起きたのです。これは、図書館向けの送信サービスがほぼ使えなくなることを意味します。

筆者は当時、資料デジタル化事業の全体統括を担当しており、「送信サービスが使えなくて困っているの何とかなしてほしい」という、主に人文社会学系の研究者から寄せられる電話やメールを受ける立場にありました。図書館向けの送信サービスでは、利用者対応は提携先の図書館で行われるので、それまで利用者と直接話をする機会はほとんどありませんでした。また、提携先の図書館からは普段、「運用ルールが煩雑」、「利用が少ない」といった意見を多くいただいでいました。ですから、「使えなくて困っている」という利用者の声に直に接して、「そうだったのか」と驚いたことをよく覚えています。しかし、著作権法が改正されないことには、打てる手はほとんどありませんでした。

そうこうしているうちに、若手研究者が中心となり設立した「図書館休館対策プロジェクト」や、出版者協議会、日本歴史学協会といった団体から相次いで、可能な限りデジタル化資料の公開範囲を拡大するよう要望が出されました。さらに、五月の衆議院の文部科学委員会でもNDLと文化庁に対して、緊急的なデジタル化資料の公開範囲の拡大を求める趣旨の質疑がなされたのです。

文化庁はそれに対して「制度的な対応についても検討し

知泉書館

【全5巻 完結！】

山田晶 中世哲学講義

京都大学の学部生への18年に及ぶ講義で毎回準備された貴重な自筆講義録を初公開！

第一巻 昭和41-44年度
川添信介編 A5/420p/4000円

第二巻 昭和45-49年度
水田英美編 A5/438p/4000円

第三巻 昭和50-52年度
小浜善信編 A5/310p/3500円

第四巻 昭和53-55年度
水田英美編 A5/392p/4000円

第五巻 昭和56-58年度
川添信介編 A5/304p/3500円

ランケと近代歴史学の成立

佐藤真一 史料収集と徹底した史料批判で近代歴史学を築いたランケの全体像を初めて描く A5/410p/5200円

パピルスが語る古代都市

ローマ支配下エジプトのギリシア人パーソンズ/高橋亮介訳 失われた都市のゴミ捨て場から出土した大量の史料より生活を活写 四六/514p/5000円

振り向きざまのリアル

哲学・倫理学エッセイ集 土橋茂樹 身近な素材をとおして、哲学者は気付かずに見すごしていることを見事に引き出す 四六/356p/3200円

六朝論語注釈史の研究

高橋均 資料が散逸した六朝時代の論語注釈史に光を当てる中国古典学の醍醐味を伝える業績 A5/646p/9000円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166
<http://www.chisen.co.jp>

ていく必要がある」と答弁し、その後ほどなくして、文化庁からNDLに対してヒアリングが行われました。筆者が個人送信を実現するための法改正のアイデアを文化庁から聞いたのは、この前後ことだったと記憶しています。それまでも、送信の範囲を図書館から拡大していくことは課題ではあったのですが、筆者も文化庁がここまで思い切った法改正を考えているとは想定しておらず、このときも「驚いた」というのが正直なところでした。

八月には文化審議会著作権分科会法制度小委員会にワーキングチームが立ち上げられ、個人送信も含めて急ピッチで議論が進められました。そして、十一月には「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する報告書」がまとめられたのです。

報告書の内容が盛り込まれた改正法案は、二〇二一年の通常国会に提出されました。改正法は公布後一年以内の施行が想定されていましたので、会期の後半日程で成立すれば、二〇二二年度の早い時期に施行されることとなります。

内部規則の改正、情報システムの改修などの準備スケジュールを考えると、サービスの大枠を急ぎ関係者と合意しておく必要があります。

二〇二一年一月から三月にかけて、まずは「資料デジタル化及び利用に係る関係者協議会」において予備的な検討を行い、四月からは、文化庁とNDLとの共催で新たに設けた「国立国会図書館による入手困難資料の個人送信に関する関係者協議会」において協議を重ね、サービスの大枠を定めた「国立国会図書館のデジタル化資料の個人送信に関する合意文書」を十二月に公表しました。コロナ禍が収束しない中、関係者の協力もあり、覚悟していたよりもスムーズに協議が進んだように思います。

多様に広がる利用動向

個人送信は、各種メディアによる報道もあって、開始前から注目を集めていました。SNSなどでは「絶版になった資料は何でも読める」という誤解も見られたのは気になる

りましたが、同時に、研究者や学生以外にどこまでニーズがあるのかわからなかった中で、これまで国立国会図書館をあまり利用しなかった層からの期待も感じていました。

迎えた五月十九日。筆者も、朝からSNSの反応をチェックしたり、電話の問合せに対応したりしていました。「期待していた資料が読めない」、「利用導線がわかりにくい」といった声もありましたが、総じて反応は上々でした。実際、送信資料の利用は大きく伸びました。例えば、六月の個人送信の閲覧数は約三五万件、その前年の六月の図書館送信の閲覧数は約三万件だったので、十倍以上も増えたこととなります。

開始からしばらくの間は、新規の利用者登録申請も増えました。前年度は月平均約四〇〇〇件だったのが、六月末までに約三万件以上の申請が寄せられたのです。背景には、従来は来館と郵送で受け付けていた申請を、個人送信の開始と合わせて、オンラインでも受け付けるようにしたこともありそうですが、想定以上の伸びでした。なお、初回利用時に「国立国会図書館オンライン」にログインして利用規約に同意する必要がありますが、九月末までの三か月余りの間に、約六万人の方が規約に同意しています。

では、どういった資料が利用されているのでしょうか。八月時点での数字では、利用された資料のうち五一パーセントが図書、四八パーセントが雑誌でした。図書の分野別の利用状況では、人文系の図書の利用が全体の六割を超え

ており、送信されている図書の分野の割合に比してその利用が多いことも確認できました。図書館向けの送信資料の利用状況でも同様の傾向を示していたので、この結果は予想通りでした。NDLに来館した利用者の、漫画を除いた図書の分野別の利用傾向も同様なので、NDLの利用者の傾向がそのまま表れたと理解することもできます。

取材では、「おすすめの絶版本はありますか?」と質問されることも多いのですが、いつも回答に困っています。学術書や自治体史などの地域資料から、文芸作品やサブカル本まで幅広く送信されており、人によって色々な楽しみ方ができるからです。筆者の場合、古い時代の海外旅行記を読むのが趣味なので、分類から絞り込んでリスト化してから気になったものを順番に読んでいますが、SNSなどを眺めていると、様々なテーマの資料に食いついている人がいることがわかります。鉄道や刀剣といったテーマではまとめサイトも登場していて、その道の詳しい方が作成したガイドは眺めているだけで楽しいものです。

筆者にとって嬉しい驚きだったことにも触れておきます。それは、閲覧した送信資料をオンライン古書店で購入する動きが散見されたことです。送信資料を閲覧すると、古書の通販サイト「日本の古本屋」へのリンクが表示されます。これは、図書館向けの送信を開始した際に古書店の業界団体と話し合い設けたのですが、利用者個人の端末からアクセス可能になったことで、本領を發揮したのだろうと推

測しています。

ただ、これらは、あくまでも短期的、限定的な数字や印象に基づくものなので、個人送信がNDLの、ひいては全国の図書館の利用にどのような影響を与えるのかについては、もう少し長く広い目で見ていく必要があるでしょう。

送信の先にあるもの

筆者は、今回の個人送信の開始を、一連のNDLの「デジタルシフト」の先触れに当たるものと考えています。まず、二〇二二年十二月に「国立国会図書館デジタルコレクション」の全面リニューアルを予定しています。操作性の向上だけでなく、録音・映像資料や古籍籍などを除いたデジタル化資料の本文検索も可能となります。

送信対象資料も増やしていく予定です。二〇二〇年に、著作権法改正の動きと並行して、NDLの資料デジタル化を加速すべきだという議論が国会で起こりました。その結果、令和二年度及び三年度補正予算により、一九八七年までに受け入れた図書等約六四万点のデジタル化が今年度内に終了する予定です。二〇二三年にはその半数近くが送信対象となる見込みです。ほぼ同時期に個人送信でのプリントアウトも可能になります。また、海外在住の登録利用者への送信の実現や、NDLで所蔵していないものの他の図書館では所蔵している絶版等資料の収集・送信の拡充にも取り組みたいと考えています。

別に展開される「ジャパンサーチ」のような、わが国の多様なデジタルアーカイブを分野横断的に利活用しようとする取り組みの進展とも相まって、NDLを活用した学術研究や教育の環境は、大きな変化の中にあります。情報へのアクセスにおける地理的、時間的な制約が少しでも解消され、過去の知識の蓄積から新たな知識を生み出す好循環が一層進むことを、筆者も期待しています。

一方で、より注意すべきことも出てきそうです。例えば、デジタル化されているもの、送信されているもの、本文検索できるものといったように、アクセスしやすい情報ばかり参照していると、全体の把握という点ではかえって不十分なものになってしまいかもれません。また、今となつては誰かの機微に触れる情報が掘り起こされることもあるかもしれません。情報へのアクセスの利便性が上がると、それを利用する側にも相応のリテラシーが求められるという古くて新しい課題に、私たちはここでもまた向き合わねばならないのだろうと考えています。

参考文献

福林靖博「令和三年著作権法改正と国立国会図書館による絶版等資料の個人への送信について」『情報の科学と技術』七二巻三号、二〇二二年。

<https://doi.org/10.1891/jkg.72.3.82>

国立国会図書館「個人向けデジタル化資料送信サービス」https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html

古書店と学術書——専門店という営みから考える

河野高孝（古書店店主／河野書店）

駒場東大前駅近くで古書店を営んでおります。本誌読者にあらためてご説明の必要はないでしょうが、渋谷と吉祥寺を結ぶ「京王井の頭線」という短い私鉄の、渋谷から二つ目の駅です。駅名にあるとおり東京大学教養学部が駅の北側に控えております。

そのような立地から、いわゆる学術書を扱う比率が、平均的な古書店と比較すると、多いようです。自然の成り行きでもありますし、いくらか意図したところでもあります。そうしたことについて、お話ししたいと存じます。

古書店の品ぞろえ

長年、店の帳場に座っておりますと、お客様から、いろいろとお尋ねを受けることがあります。もちろん本に関連したことが一番多いのですが、店に関するご質問もそれに劣らずあります。

定番と言える質問は次の三つです。

- ①この店はいつから（何年）やっているのですか？
- ②最近の学生（東大生）は本を買いますか？
- ③この（店内に並ぶ）本はどうやって手に入れられるのですか？

一問目に答えるのは難しくありません。一九八三年三月一日が当店の開業日。東京デイズニールランドの開業より一か月半ばかり前です。ただし当時は現在の場所よりさらに駅近、ホームから真下に見える場所でありました。そこで二〇〇二年、二〇〇三年に三〇メートルほど東に移転してからも来年で二〇年となりますが、いまだに時折、ご来店のお客様から「前はもっと駅の方にありましたよね」と話しかけられることがあります。

二番目の質問は、そうした古いお客様から受ける場合が多い気がします。似た質問に「東大生はよく店に来ます

ボーアとアインシュタインに 量子を読む

量子物理学の原理をめぐって

山本義隆 二人の巨人の思索を軸に、量子力学建設当時の主要論文を読み解き、原理的な変革を体感する深く熱い講義。¥6930

民主主義のルールと精神

それはいかにして生き返るのか
ミューラー ルールが破られ精神が蔑ろにされて民主主義が機能するはずがない。前に進む道を共に探る書。山岡由美訳 ¥3960

日本のカーニバル戦争

総力戦下の大衆文化 1937-1945
ウチヤマ 国家総動員令の抑圧に「臣民」は現実を祝祭化して消費。膨大な史料から大衆心理を描く労作。布施由紀子訳 ¥4620

奴隷会計

支配とマネジメント

ローゼンタール 南部プランテーションは製造業に先駆け先進会計技術で奴隷を管理。現代会計の暗黒史。川添節子訳 ¥4950

新資料が語るゾルゲ事件 1

ゾルゲ・ファイル 1941-1945

赤軍情報本部機密文書

ファッション編 ソ連崩壊後に機密解除された218点が明かす諜報戦。独ソ開戦・日本軍南進情報の背景。名越健郎・陽子訳 ¥7040

ジョン・ロック伝

克蘭ストン 国家と市民、宗教と寛容、革命、植民地…近代初期国家を探究した英国の哲学者の全体像。小松・田中他訳 ¥9350

欧化と国粹

明治新世代と日本のかたち

パイル 近代国家のあり方をめぐる民友社と政教社の激論は因らざるも国家主義に飲まれた。名著復刊。松本三之介監訳 ¥5500

東京文京本郷 2丁目20-7

みすず書房

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)
www.msuz.co.jp

か？」というものがありませんが、店に来て学生（東大生）ですと名乗られるケースは稀ですから、どちらの問いに對しても、店主に正確な返答ができればよいはずありません。期待されている答えは、おおむね想像がつくのですが。

さて三問目。これは素朴にその量を見てお尋ねになる場合と、他の書店とは毛色の違う本（例えば洋書）が並んでいることに対してのお尋ねの場合とがあります。どちらに對しても答えは同じです。まずお客様から買い受ける。しかしそれだけでは思うような品ぞろえはできません。専門とまでいかなくとも、力を入れたい分野がある場合、待っているだけでは本は集まりません。そこで古書店主は市場（交換会）へ足を運ぶのです。

市場には、それぞれの店が、お客様から買入れた本の中から自店では売れそうにない本、あるいは他店が高く買ってくれそうな本を持って行って売りに出します。そして他店が出品したのから、自店の品ぞろえに必要な本を手に入れるわけです。交換会と呼ばれる所以です。

さらに専門性が高い店では、「せどり」と呼ばれる同業店巡りもします。こうした専門店が集める本は要するに専門書であり、その中には学術書も含まれます。

以上で明らかのように、古書店に並ぶ本は大別すると二種類です。お客様が持ち込まれた本（自然の成り行き）。自らの意志で手に入れた本（意図したもの）。後者の比率が高いほど、専門性の高い店と言えます。

専門店と学術書

当店は東京都古書籍商業協同組合（以下、東京古書組合）という団体に加盟しております。一九二〇（大正九）年に設立（協同組合となったのは一九四七（昭和二二）年）され、現在の会員数は約五六〇名。ご多間に漏れず減少傾向にあります。

東京古書組合は都内に大小四つの会館を持っていますが、そのうち東京古書会館（千代田区小川町）がいわゆる本部会館で、ここで毎週月曜日から金曜日までに五つの交換会

が開かれます。月曜日が一般書を扱う「中央市会」、火曜日が古籍籍の「東京古典会」と、洋書中心の「東京洋書会」、水曜日が「東京資料会」、金曜日が「明治古典会」。

じつは木曜日にも「一新会」という市会が開かれていたのですが、昨年までで廃止されました。その経緯を詳しく追うことも、本稿のテーマとして与えられている学術書と古書店との関わりにつながるはずですが、今回その問題には触れません。

「古本屋の生き残りの道は専門店化である」と、唱えられたことがあります。

少し古い話ですが、一九八五（昭和六〇）年、東京古書組合東部支部が、設立二〇周年記念誌で簡単なアンケートを行い、その分析と合わせて「下町の古本屋は生き残れるか」という記事を残しています。「漫然と、店に入ってきた本を並べて売っているだけでは生き残れない。それぞれが特性を生かした専門店を目指すことが、生き延びる道だ」というのが、一つの結論でした。いわば主体的な品ぞろえの勧めです。これは、現在でも、一定程度正しい意見です。それぞれが専門化することによって、多様な価値基準が生まれ、交換会が成立する基盤ができます。いわば棲み分け理論でしょうか。もちろん適度な競合も必要であることは、言うまでもありません。

学術系の専門店が神保町、本郷に多く見られたのは、もとより立地条件によるものですが、その条件とは学校が近

隣にあるという以上に、市場が近くにあったことです。専門店の品ぞろえに市場が不可欠であることは先にも述べました。市場のおかげで専門化することができた古書店街は、それによって集客力を増し、さらに新たな古書店を招き寄せるという循環があったわけです。

古書としての学術書

人が古書を買うのは、およそ次の二つの理由のいずれかでしょう。①新刊より安く買える。②古書でしか手に入らない。

②はさらに、次の二つに分けられます。

品切れ絶版などで手に入らない（学術書など）。オリジナル性に意味があり、再版では価値がない（文学書の初版本など）いわゆるコレクターズアイテム）。

コレクターズアイテムの特色は、本を容れ物としてとらえる点にあります。書かれている内容以上に、容れ物の側に価値を見出そうとするわけです。これに対して専門書、分けても学術書は、ほとんどの場合それと対照的に、容れ物には価値を求めません。

現在、古書としての学術書は、受難の時代を迎えていると言えるのですが、その要因はここにありそうです。インターネット社会の広がりやデジタル技術の進展が、学術書の売買を容易にし、専門書店の価値づけ（リバリュー）を許さなくなつたのです。すなわちコモディティ商品と化し

てしまったわけです。

古書価の下落

東京古書組合の開催する交換会の年間出来高は、バブル崩壊以降、なだらかに下がりが続け、盛時の半分ほどにまで低下しています。ただ一方で、取り扱われる古書の量は、正確な把握はできないものの、近年、明らかに増加しているように見受けられます。

それが意味するのは、古書相場が加速度的に下落しているということです。ある種の出版物は、ほとんど値崩れもいってよい状態を呈しています。百科事典、美術全集、文学全集といった類は、すでに早くから値を崩し、取引が成立しないケースがほとんどです。

こうした種類の書籍は、いわば消費期限切れ商品（賞味期限ではなく）といえるわけですから、当然のことかもしれません。学術書でも増補改訂版、新版などが再刊されれば、旧版は消費期限切れとなって、市場では買い手がつか

なくなりま

なくならず。東京大学出版会が刊行を続ける『大日本史料』。これを学術書と呼ぶかどうかは意見のあるところでしょうが、学術的な出版物であることには違いありません。その既刊揃いに近い冊数（約400冊）が最近、東京古書会館のある交換会に出品されて、話題を呼びました。落札価格がわずか数万円であったというのです。「大日本史料総合データベース」という、非常に便利なツールの出現で、書籍体の必要が大きく減じたとはいえ、かつて数百冊で数百万円という落札価を目にしたことのある同業者たちにとっては、衝撃的な事実でした。いわゆるレフアレンス類は、この先どれほどのものが書籍として残るか疑問です。

それでは学術書の現状はどうでしょうか。

学術書は堅い商品だとされてきました。それは一般書に比べ発行部数が少なく（希少性があり）、息長く売れる（良い本は古くならない）という信頼から来ています。定価が高いため、市場での取引価格がそれに応じて高い（かった）

「ことばのあや」
のメカニズム
を探究!!

【例解】現代レトリック事典

瀬戸賢一・宮畑一範・小倉雅明【編著】▼「意味の《あや》」形式の《あや》「思考の《あや》」の3部構成▼72項目を収録▼古典や現代文学、ノンフィクション、漫画などバラエティに富んだ実例▼80点の図版を収録

より深い読解、より効果的な発信に

●612頁・8800円

【最新刊】

変動する 大学入試

資格か選抜か
ヨーロッパと日本

伊藤実歩子【編著】

ヨーロッパ各国の入試制度の特徴や課題を詳らかにし、日本との比較を通して今後の入試のあり方を考察する。コロナ流行下の各国入試動向も掲載。

●290頁・3300円

大修館書店

<https://www.taishukan.co.jp/>

●定価は税込

のも「堅い」とされた所以です。

もちろんサイクルの短い学術書もあります。それはその学問分野の特性によるもので、そのあたりをわかまえないければ専門店にはなれません。

しかし専門店にとって、店で学術書を売ることが、困難な時代となってきたのは明らかです。もともと限られた需要のものですから、顧客名簿を作成し在庫目録を直送するという通信販売商法が、早くから行われていました。その後インターネットの普及により、ネット通販に取り組み店も現れましたが、多店舗参加型通販サイトの登場が、専門店の存立を脅かすことになりました。

東京古書組合が運営する「日本の古本屋」も、専門店にとつては両刃の剣となるのが当初から予測されていました。学術書が、とりわけ価格競争にさらされやすい（コモディティ化しやすい）商品であることは、先に述べたとおりです。専門店が培ってきた価格体系は、大きく崩されました。それでも「日本の古本屋」は組合員にとつて、今や不可欠な販路であることは紛れもない事実です。

ネット時代の学術書

学術書の値崩れは、専門店商品から、誰でも売れる商品となったことが大きな原因ですが、ほかにも見逃せない要因があります。その一つが旧蔵本の流通です。

かつて図書館は、蔵書の不正流出に目を光らせていまし

た。今では多くの図書館が、蔵書処分に苦勞しています。個人研究費購入図書も、少し前まで厳しい管理下にありました。しかし現在は、その処分が個人に任されるが多くなっています。結果としてそうした本が古書店に払い下げられることが増え、販売サイトに現れます。多くの場合格安の値段が付けられ、相場を押し下げています。

専門の読者を対象とする学術書は少数数出版が多く、入手方法も限られていました。そこに専門書店が成立する余地があったわけです。需給動向を把握して古書価格を主体的に設定できる、それが専門店の強みでした。

しかしネット販売サイトの拡大により、学術書のコモディティ商品化は急速に進みました。専門書売りのハードルは格段に低くなったのです。さらに素人が販売できるAmazonなどの出現により、販売価格のブレは下方のみならず、上方へ向けても一層極端になっています。

学術書はこれからも数多く出版されるでしょうし、古書業界としてもぜひそうあってほしいと願います。とはいえ、専門店が出版（再）流通に果たしてきた役割（独自の価値づけなど）を、今一度取り戻すことは可能でしょうか。

東京古書組合の「日本の古本屋」は元来、古書と出会うサイトである以上に、古書店と出会うサイトであることを目指してスタートしたものでした。今後のシステム改良を通じ、多様な専門店が多様な学術書の流通を支える仕組みを、再構築できないものかと考えております。

誄詞 石井和夫氏へ

竹中英俊

(元東京大学出版会)

大学出版部協会第三代幹事長を務め協会顧問として逝去されました石井和夫氏への誄詞を奏します。

氏は本年八月二四日、介護ホームにて穏やかに天寿を全うされました。享年九五。ご遺族によれば《丸山(眞男)先生の『日本政治思想史研究』の出版に携わることができて運がよかったが父との最後の会話になりました》とのことでした。「大学出版に生き大学出版に死す」者の辞と言えらるでしょう。

一九二七年愛知県生まれ。東京府渋谷で育ち、府立四中(戸山)から、仙台陸軍幼年学校、航空士官学校に進み、帝国陸軍軍人の道を歩みました。敗戦を満洲の地で迎え、朝鮮を経て帰還。「一身にして二生を經る」と自身語られているように価値観の大転換。カツギ屋、ペンキ屋、角川書店での出版の手伝いを経て、東京大学文学部に入り、東大生協学生委員となり、一九四九年から生協出版部で活動しました。

翌年、生協出版部の解散方針が出て、氏は大学出版部を模索。東京大学出版部創設の際、首唱者である南原繁東大総長から編集主任の辞命を受けました。一九五一年二月二八日、二四歳の時です。爾来、大学出版ひと筋。編集主任、常任理事、第二代専務理事として東京大学出版会の活動の中心を担

いました。このような事績に対して二〇〇九年「新渡戸・南原賞」が与えられ、また氏は東大出版会南原繁記念出版賞基金への寄付をされています。

一九六三年の大学出版部協会設立に際しては発起人に名前を連ね、その後、幹事長を務め、協会に対する日本生命財団刊行助成の運用・充実に、さらにアメリカ大学出版部協会の日本研究図書出版促進計画の推進に大きな役割を果たしました。氏の軌跡は、編集を手がけた数多の書籍にあるとともに、唯一の単独著『大学出版の日々』に結晶しています。本書は、東アジアとの出版交流にも尽くした氏にふさわしく、一九九〇年に北京大学出版社から中文版が刊行されています。

氏は、昭和前期の戦争について「愚かな戦争であった」と『UP』二〇一三年一月号の「学徒出陣と南原繁」で書いています。それは若き日の軍人としての日々を思い返した苦衷を胸に秘めながらの言です。その一世紀に近い生涯を顧みる時、その軌跡自体が、氏が編集した一冊の本、書籍です。

協会幹事長退任後は顧問に就き、協会総会後の懇親会において、後進の会員に向けて自らの経験と抱負を語られることを常としました。明年、協会は設立六〇周年を迎えますが、氏は彼の国から、六〇周年を心から寿ぐと共に、会員への熱いメッセージを語られるものと信じます。氏の軌跡が示す言葉に協会会員諸氏が耳を傾けられることでしょう。

石井さん、安かれ！

大学出版部ニュース

表示価格は税込です。

大学出版部協会・活動報告

八月二日(火) 一四時〇〇分～

第二回 編集部会 開催

九月一六日(金) 一五時〇〇分～

第三回 営業部会 開催

九月二二日(木) 一五時三〇分～

第四回 理事会 開催

一〇月一三日(木) 一四時〇〇分～

第三回 編集部会 開催

(理事会・部会はZOOMでの開催)

▼東京都古書籍商業協同組合が毎月配信する「日本の古本屋メールマガジン」(無料・約二三人)において、新連載「大学出版へのいざない」が始まる。本誌「大学出版」を紹介する初回(一二月末配信)に続き、以降は各出版部イチオシの新刊の内容と魅力を、その執筆者や編集者が語るものだ。「日本の古本屋」Web会員登録からメルマガ配信希望の手続きのうえ、ぜひ毎号お読みいただきたい。

▼協会顧問の石井和夫さんが、八月二四日にご逝去された。本誌掲載の竹中英俊さんによる追悼文に窺えるように、大学出版の創設と発展にご尽力くださり、多大なご功績を残された。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

北海道大学出版会

▼斎藤新一郎著『北海道樹木図譜』(B5判・六九四頁・二二〇〇円) 北海道に天然分布・植栽された樹木、四八〇種を解説。著者が画いた精確な図版を収録。

▼永野正宏著『北海道天然痘流行対策史―アイヌ民族と安政年間の種痘を中心―』(A5判・二八〇頁・五九四〇円)

江戸幕府や松前藩、明治政府のアイヌ民族や和人への天然痘流行対策について文献史学の手法で実証的に論じる。

▼押野武志・吉田司雄・陳國偉・涂銘宏編著『交差する日台戦後サブカルチャー史』(四六判・二六〇頁・三三〇〇円) 文学、映画、オタク文化、ミステリなど、戦後から現代に至る日本と台湾のサブカルチャーの交差を双方の観点から明らかにする。

▼小島廣光・平本健太著『非営利法人制度改革の研究―新・政策の窓モデルによる実証分析―』(A5判・四九〇頁・九三五〇円) 非営利法人制度改革は今世紀初頭の十余年間で、「なぜ」「どのように」実現したのか。著者独自の「新・政策の窓モデル」を駆使した事例研究で複雑な政策形成過程を詳細に解明する。

弘前大学出版会

▼森樹男・熊田憲・高島克史・大倉邦夫・林彦櫻編著『青森からはばたく！じよっぱり起業家群像Ⅱ』（A5判・一七〇頁・一七六〇円）地域に新しい希望と魅力を届けようとしている「じよっぱり起業家」の姿とその声を紹介。起業家のロールモデルを通して、自分には何ができるのか具体的にイメージする手助けとなる一冊。答えのない課題を解決するために欠かせない起業家の素養とは何か事例を通じてリアリティをもって理解することができる。

▼青森県スポーツドクターの会・弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座編集／青森県高等学校野球連盟監修『野球検診手帳』（A5判・五八頁・四九五円）スポーツ医学の専門家が、成長期の野球選手に必要な医学的な情報を多岐に解説。成長期に生じる肘の障害は、検診で早期に発見し対処すれば、手術をせずに治すこともできる。また、本書は検診の記録簿にもなっており、選手・指導者・医療機関の間で正しい情報のスムーズな共有にも役立つ。楽しく安全に野球が続けられるよう、本書を活用してほしい。

東北大学出版会

▼工藤昭彦・角田毅編著『農地政策と地域農業創生―参加型改革の原点を探る―』（A5判・三三四頁・四二九〇円）競争力重視の選別的農地政策が転換を迫られる中、戦後過程における農地政策の限界を検証し、併せて国内外の事例分析を通して「農業の持続的発展」「農地資源の維持管理」「コミュニティの再生」を分権的・一体的に推進する取り組みを紹介。ローカリズムを推進力として拡がりをもせる「暮らしの拠点づくり」「社会の持続性確保」と、その先駆けとなる「社会企業の農業経営体」の創設を動機づける制度的枠組として「農地資源共同信託組合」の設立を提案する。

▼東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会編『私のモノがたり』（人文社会科学講演シリーズⅫ）（四六判・二〇六頁・二四二〇円）好評の人文社会科学講演シリーズの第12集。「もの」「物」「モノ」の意味と、それを語ることで立ち現れる様々な事象について考える。東北大学大学院文学研究科に所属する、日本思想史、言語学、日本美術史、社会心理学、社会学の研究者による論考集。

流通経済大学出版会

▼永岡悦子著『大学大衆化時代における日本語教育の役割と可能性―グローバルシテイズンシップの育成をめざした研究と実践の試み―』（四六判・三七八頁・二九七〇円）大学大衆化が進む中で、外国人留学生の受け入れはどうあるべきか。日本の留学生政策を検証する。



▼林克彦著『現代物流産業論―ロジスティクス・プラットフォーム革新―』（四六判・三〇八頁・二五三〇円）労働力不足の深刻化にコロナ禍が重なり、厳しい状況に置かれている現代の物流産業。その危機を打破するためには何が重要か。物流企業の動向を詳説し、構造変化を分析した一冊。



聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一七六〇円）
幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。
▼宇佐美博子・河村久・神田由紀・黒須利夫・小林芳枝・長橋雅俊・松井孝夫・八木正一著『教職実践演習』（B5判・一四六頁・一七六〇円）中学校・高等学校教諭を目指す方に向け、教職課程の振り返りから生徒指導要録・通知表の記入の仕方まで解説。教職の魅力が満載。
▼聖徳大学特別支援教育研究室編『一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなを進める特別支援改訂2版』（A5判・二四九頁・一七六〇円）初学者のための特別支援教育本。コンパクトなハンディサイズに、全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎的知識を盛り込んだ一冊。

慶應義塾大学出版会

▼モリス・バーマン著／込山宏太訳『神経症的な美しさ―アウトサイダーがみた日本』（A5判・四一六頁・四一八〇円）『デカルトからベイトソンへ』で衝撃を与えた思想家による日本論。「黒船」来航に始まるアメリカとの交渉・戦争を通じて、近代日本の精神・文化が如何に変容したか。禅からオタク文化まで広汎な分野を狩猟し、ポスト資本主義スタイルとしての「日本的なもの」の可能性を探る。
▼西直美著『イスラーム改革派と社会統合―タイ深南部におけるマレー・ナシヨナリズムの変容』（A5判・二七二頁・五五〇〇円）仏教徒が多数を占めるタイ深南部でイスラームの改革派による学校教育が、マレー・ナシヨナリズムによる分離運動を鎮静化しているというパラドックスを現地調査から描く。
▼S・ハスランガー他著／木下頌子他編訳『分析フェミニズム基本論文集』（A5判・三〇四頁・三三〇〇円）近年盛り上がりを見せる分析フェミニズムの重要な論文を紹介。英米系の分析哲学と呼ばれる潮流のなかで女性をめぐるさまざまな問題に取り組む哲学書。

専修大学出版局

▼神谷渉著『協働型プライベートブランド―食品小売業におけるプライベートブランドの進化と消費者購買行動への影響』（A5判・二〇六頁・二八六〇円）メーカーとの共同開発やメーカー製造による協働型プライベートブランド（PB）がどのようにシエラを拡大したのか、消費者からどう評価されているのかを調査・検討し、メーカーや小売業に対し今後のPBの在り方を示唆する。
▼佐藤典子著『看護職の働き方から考えるジェンダーと医療の社会学―感情資本・ジェンダー資本』（A5判・二六〇頁・二八六〇円）ジェンダー、感情、遺伝子情報に至るまで、あらゆるものが人的資本として流通する現代。ネオリベラリズムが、浸透するなかで、当たり前と思われている日常の実態に迫る。
▼根間弘海著『大相撲の行司と階級色』（A5判・二五四頁・三〇八〇円）軍配房の色は行司の階級をあらわす。紫房は江戸時代においては禁色であったか。紫房はいつから許されるようになったかを考察する「大相撲立行司の紫房再訪」など、行司をめぐる八つの論考を収録。

玉川大学出版部

▼清水栄子・中井俊樹編『大学の学習支援 Q&A』(A5判・一七八頁・二二〇〇円) 学習支援の現場で、学生が抱える多様な課題の支援のためにどう対応すればよいか。面談の基本から学習支援者の能力開発、専門組織の運営まで、豊富な経験をもつ執筆者が実践に生かせる一〇〇の課題とその解決策を紹介。巻末には面談に活用できる各種シートやアンケート例などを掲載。学習支援に携わる教職員必携の書。

▼森良和・フレデリッククレインス・小川秀樹編著『三浦按針の謎に迫る』(四六判・三四〇頁・二八六〇円) 徳川家康の外交顧問として活躍したイギリス人・三浦按針の実像を、新史料や遺骨の科学分析等の近年の知見をふまえて明らかにする。

▼藤村正司著『データから読む高等教育の構造』(A5判・四七二頁・七四八〇円) 日本の高等教育の未来像を描くために、主に九〇年代の改革以後の動向をデータから可視化。閉塞的な現状を打開する策を模索する。

中央大学出版部

▼奥田安弘著『国際私法と隣接法分野の研究・続編』(A5判・三八〇頁・四九五〇円) 前者から十数年間に公表した論文などを大幅に加筆修正。裁判の意見書や立法作業への関与をきっかけとした論文八本、外国の雑誌に寄稿した論四本、日本の主要な国際私法法令の英訳を含む。

▼於興中著／梶田幸雄・柴裕紅編訳『法の支配と文明秩序』(A5判・二四〇頁・三〇八〇円) 文化大革命期に大学で学び、ハーバード大学で西側の法理学を学び、博士の学位を取得した著者の於興中氏は、西側諸国の「法の支配」に対する疑問や欠陥を指摘し、中国指導者の法の支配によらない理想社会形成の基軸的思考形態を示す。

▼中央大学文学部編『学びの扉をひらく上・下』(四六判・上一八八頁、下一九〇頁・定価各一〇〇〇円) 一年間の「本づくり演習」によって中央大学文学部の学生・教員が創り上げた教科書。教員が共通テーマから各学問分野の特色を伝え、学生が読者に近い目線から学問の魅力を引き出す。自分の「学びたい!」を探すあなたに向けた必読書。

東京大学出版会

▼横澤一彦・鈴木宏昭・川合伸幸・嶋田総太郎各編『認知科学講座(全四巻)』(A5判・平均二七二頁・各巻三二〇〇円) 認知革命の起源から現在までの動向を総覧し、次世代の認知科学の進む道筋を示すシリーズ。第一巻『心と身体』／第二巻『心と脳』／第三巻『心と社会』／第四巻『心をとらえるフレームワークの展開』という構成で、最もアクティブに研究が展開している領域をとりあげる。

▼河野哲也・三嶋博之・田中彰吾編『知の生態学の冒険 J・J・ギブソンの継承(全九巻)』(四六判・平均二五六頁・各巻三二〇〇〜三五〇〇円) ギブソンが創始した生態心理学・生態学的アプローチにおける重要なアイデアや概念を受け継いだ研究者らが最先端の研究を紹介。

第一巻『ロボット』岡田美智男／第二巻『間合い』河野哲也／第三巻『自己と他者』田中彰吾／第四巻『サイボーグ』柴田崇／第五巻『動物』谷津裕子／第六巻『メディアとしての身体』長滝祥司／第七巻『想起』森直久／第八巻『排除』熊谷晋一郎／第九巻『アフォーダンス』三嶋博之・河野哲也・田中彰吾。(＊近刊)

東京電機大学出版局

▼東京電機大学編『サイエンス探究シリーズ 偉人たちの挑戦(2) 物理学編I』(A5判・二五六頁・三〇八〇円) 科学で偉大な発見・発明をした偉人の業績と生涯を分野別に紹介するシリーズの第2弾。

登場人物は、ロバート・ボイル、ロバート・フック、アイザック・ニュートン、ベンジャミン・フランクリン、ジェームズ・ワット、ゲオルク・ジーモン・オーム、マイケル・ファラデー、ケルヴィン卿(ウィリアム・トムソン)、ジェームズ・クラーク・マクスウェル、ヴィルヘルム・レントゲン、J・J・トムソン、マックス・プランク、長岡半太郎、マリール・キュリー、寺田寅彦、リーゼ・マイトナー、アルベルト・アインシュタインの総勢17人。

▼重定知彦著『学生のためのJavaScript』(B5判・三四四頁・四一八〇円) さまざまなゲームづくりをとおしてプログラミング言語を学ぶ課題演習型のテキスト。基礎力が身につく、新たな課題を解決する実践的な能力が獲得できる一冊。

法政大学出版局

▼二藤拓人著『断片・断章(フラグメント)を書くーフリードリヒ・シュレーゲルの文献学』(A5判・三五六頁・五五〇〇円) メディア文化学の知見からロマン派の断章執筆を当時最先端の知識人の実践として人文学史に位置づける。

▼崎濱紗奈著『伊波普猷の政治と哲学ー日琉同祖論再読』(A5判・三二六頁・四四〇〇円) 伊波普猷の脱構築的読解によって、今あるのではない様に、世界を変容させるための方途を掴もうとする。沖縄近現代思想史の核心への果敢な試み。

▼梁仁實著『朝鮮映画の時代ー帝国日本が創造した植民地表象』(四六判・三〇六頁・三六三〇円) 帝国日本では多くの映画人や作品、情報が往来し、内地でも朝鮮映画が上映され「朝鮮物」が作られた。こうした朝鮮映画や朝鮮物は誰に観られ、いかに考えられていたのか。

▼C・W・ミルズ著/杉村昌昭・松田正貴訳『人種契約』(四六判・二五四頁・二九七〇円) 人種契約とは人間を白人とそれ以外に分類する政治的合意である。人種契約の上に成り立つ現代リベラリズムの歪みを剔出する黒人哲学の名著。

武蔵野大学出版会

▼ケネス・タナカ著『目覚めるアメリカ仏教ー現代仏教の新しい未来像』(四六判・二七二頁・二五三〇円) 現在、欧米では仏教が伸長し続けている。仏教は「西洋の壁」を超え、「東洋」に限るものではなくなったのだ。アメリカ仏教の歴史や現状、特色と背景、代表的な人物や組織から、その意義や影響力を解説する。



▼樂殿武・柴田幹夫編著『日華学堂とその時代ー中国人留学生研究の新しい地平』(A5判・五五二頁・四六二〇円) 日華学堂に関する日誌を基にして、清末の留日学生史の一端を明らかにする。日華学堂の学生たちを通じて、留学生派遣の背景、学堂の教育と経営、学生たちの生活、留学中の勉強と活躍、帰国後の活動などを紹介したほか、高楠順次郎を始めとする教員たちの献身的な教育活動を、豊富な資料と共に解説している。

武蔵野美術大学出版局

▼加藤幸治著『民俗学 フォークロア編 過去と向き合い、表現する』(A5判・二四二頁・一七六〇円) フォークロアとは、フォーク(人々、ある集団)と、ロア(伝統的な知識や物語)を合わせた造語である。今やレトロなことばとなったフォークロア。しかし、伝統をただ重んじるのではなく、過去からあるものに興味を見出し、今を豊かにしようというまなざしとその根底にある。なぜか懐かしくて理想的。ロマンチックだけど、ちょっとびり怖くて蠱惑的。そんなフォークロアを引き受けながら、みずからの表現とするには? 名物講義、ムサビ民俗学教科書の第二弾。

▼長谷川新・gallery α M編『約束の凝集』(A4判変型・二〇八頁・中とじ別冊付・二二〇〇円)「アートなんて無意味だ」「どうせいつか死ぬ」という地点にたどり着いてしまっただけ、むしろそこからどう折り返して還ってくるのか。二〇二〇年から翌年にかけてムサビgallery R Mで開催された曾根裕、永田康祐、黒田菜月、荒木悠、高橋大輔による「帰還の技術」を誌上で再現。

明星大学出版部

▼須藤康介著『教育問題の「常識」を問い直す―いじめ・不登校から家族・学歴まで 第2版』(四六判・二七〇頁・一九八〇円)本書は、様々な理論やデータを紹介し、世間一般で語られている教育問題のどれが本場で、どれが誤解なのかを検討して行く。そして、本場としたらその解決方法、誤解だとしたら誤解が生じている理由を考える。



▼樋口修資著『教職志望者のための教育法の基礎』(A5判・四九八頁・三五二〇円)本書は最新の教育法令の改正動向等を踏まえて、二〇一五年初出の『最新教育法の基礎』を大幅改定し、教員及び教員志願者が理解しておくべき最新の教育法規の基礎的・基本的知識を全十六章にわたってまとめたもの。

早稲田大学出版部

▼西口拓子著『挿絵でよみとくグリム童話』(A5判・三八四頁・四四〇〇円)資料的価値の高い挿絵をオールカラーで多数掲載。ドイツでも活躍するグリム研究者による第一級のグリム論。一九世紀初頭から一九四〇年代にかけてドイツや日本で刊行されたグリム童話の絵本を対象に挿絵を分析。西洋の挿絵と日本の挿絵、グリム童話と森鷗外、一ヘンゼルとグレーテル」とアウシュビッツなどの意外な関係性を明らかにする。

▼早稲田大学アカデミックソリューション編『やさしい大学図書館員のサバイバルイングリッシュ』(A5判・一〇〇頁・一二一〇円)大学図書館でのカウンター業務で実際に役立つ、シーン別英語フレーズ集。約七〇〇〇人の外国人学生が学ぶ早稲田大学の図書館員が、シチュエーションとフレーズを厳選。

▼劉宋・范曄著/唐・李賢注/渡邊義浩訳『後漢書本紀「二」』(文庫判・三七二頁・一一〇〇円)漢帝国の再興をなしたとげ、一四代一九六年間の栄華を極めた後漢。やがて魏・呉・蜀による三国時代へと至る激動の歴史を、原史料で読む。

関東学院大学出版会

▼バプテスト研究プロジェクト編『バプテストの歴史と思想研究⑤』（A5判・一六六頁・一五四〇円）関東学院大学のバプテスト研究者四人による最新論文集。第1章は英国バプテスト教会における聖餐論争の歴史を詳述する。第2章、第3章は異なる角度から一九三〇～四〇年代の日本におけるバプテスト教会を巡る諸相を紹介する。第4章はバプテスト草創期における指導者の主著からその神学的特徴を抽出し整理する。

〈目次〉第1章 19世紀英国カルヴァン主義的バプテストにおける聖晩餐論／第2章 熊野清樹を通してみる日本のバプテスト（2）―神学生時代、小石川教会との関係／第3章 信徒の見た教団新生会残留の経過―向谷容堂日記及び奈良信筆『早稲田教会五〇年史』未発表原稿による／第4章 トマス・ヘルウィスの『不法の秘密』における神学的理解



名古屋大学出版会

▼杉本史子著『絵図の史学―「国土」・海洋認識と近世社会』（A5判・四四〇頁・五九四〇円）近世日本において高度に成熟した表現を獲得した国絵図・鳥瞰図などの役割を、色彩・材料などのモノや、制作者や人々の想像力から新たに捉え、近代移行期の社会空間をめぐる理解を書き換える、絵図研究の決定版。

▼アダム・タカハシ著『哲学者たちの天球―スコラ自然哲学の形成と展開』（A5判・三二〇頁・六三八〇円）天の神性をめぐるハイブリッドな知の生成―。アラビア哲学を介して発展したアリストテレス的宇宙論は、キリスト教世界でどのように受け止められたのか。自然哲学の展開をつぶさに解明した気鋭の力作。

▼J・G・A・ポークック著／田中秀夫訳『野蠻と宗教Ⅱ―市民的統治の物語』（A5判・四二四頁・七四八〇円）西洋史の「大きな物語」はいかにして形成されたのか―。聖史を脱して博学と哲学を統合する多様な「啓蒙の語り」を読み解き、ギボンの知的文脈と独自性に迫るライフワーク。好評の第1巻に続く、歴史叙述をめぐる壮大な思想史。

名古屋外国語大学出版会

▼梅垣昌子著『フォークナーの十字路―短編から長編への回路』（仮題、四六判・定価未定）フォークナー研究の第一人者がまとめた壮大な論考。知られざる短編から見えてきた、巨大な作家の全体像と読解の方法とは。（二月末予定）

▼亀山郁夫・エリス俊子編『世界文学の小宇宙3 地球が集めた詩集』（仮題、四六判・定価未定）混沌の現在だからこそ贈る、世界の詩の数々。外語大の総力を挙げ、さまざまな言語で紡がれた（刺さるコトバ）を一冊にまとめる。英語圏、フランス、スペイン、ドイツ、中国、韓国、ロシア、ブラジル、ラテン語……そして日本。（二〇二三年三月予定）

▼伊藤達也編『あたらしい言語学の世界』（仮題、A5判・定価未定）音声と音韻、意味とコミュニケーション、対照言語学、地理言語学、少数言語の世界、脳と言語の見取り図など、複雑化した言語学を、典型的な主題とともに俯瞰する。教科書にも好適。（二〇二三年三月予定）

▼根無一信著『ネム船長の哲学航海記―ソクラテスからの質問―「価値は人それぞれ」でいいのか』絶賛発売中。

京都大学学術出版会

▼森口(土屋)由香・川島真・小林聡明編『文化冷戦と知の展開—アメリカの戦略・東アジアの論理—』(A5判・四六四頁・五〇六〇円)冷戦下、米国の外交広報戦略は学知・専門知にも及び、東アジアでは制御不能な知の主導権をめぐって多様な主体が相克を繰り広げた。支配と受容という一方向的な見立てでは説明できない、冷戦の新しい姿をあぶり出す。

▼藤浩明著『地球惑星電磁気学』(A5判・一九〇頁・三〇八〇円)太陽系内の天体を「磁場」を使って捉え直す。電磁場の支配方程式系、惑星が持つ磁場の空間分布と時間変化、天体規模の電磁誘導現象など、電磁気学の基礎から最新の木星探査の成果までを平易に解説。

▼山下洋・益田玲爾・甲斐嘉晃・鈴木啓太・高橋宏司・邊見由美編著『里海フィールド科学—京都の海に学ぶ人と自然の絆—』(A5判・四一六頁・二九七〇円)人々の暮らしと深く関わる身近な海として親しまれる里海。その多様性と生産性はどのようにしてもたらされるのか。里海で築かれてきた人と自然の強固な絆とその恵みを未来につなぐ方策を探る。

大阪大学出版会

▼加藤聡子・ジョー・マイナード著／義永美央子・加藤聡子監訳『リフレクティブ・ダイアログ 学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング』(A5判・四〇八頁・四四〇〇円)言語学習者に対してどのようにアドバイジングを実施するかを、実際のアドバイジング場面の豊富な用例に基づき示す。

▼小野田風子著『不透明の彼方の作家ケジラハビ』(A5判・三七六頁・六九三〇円)自由詩と実験的小説を確立させた、現代スワヒリ語文学の代表的作家に関する日本初の包括的研究書。スワヒリ語文学小史も付す。

▼石田真衣著『民衆たちの嘆願 ヘレニズム期エジプトの社会秩序』(A5判・二七二頁・四九五〇円)ギリシア語およびデモティック(民衆文字)で書かれたパピルス文書の分析をおし、古代の多文化社会の秩序を明らかにする。

関西大学出版部

▼近藤誠司著『防災教育学の新機軸—まなび合いのアクションリサーチ—』(A5判上製・二一六頁・三五二〇円)災害が頻発する現代社会において、虚心坦懐に「いのち」をまなざす真の防災教育学が要請されている。時流に乗ってノウハウやハウツウの断片を押し付けける防災教育のありかたを倫理学的な観点から再検討し、人生におけるまなび合いの道程に防災学習を再定位する。豊富な実例を繕きながら理論と実践を往還し、次の千年紀を見据えた防災教育学の新たな挑戦。

▼吉田宗弘著『食べ物の履歴書』(A5判・三〇四頁・三三〇〇円)うどん、豆腐、豚肉、きゅうり、山椒……身近な食べ物の由来や普及のプロセスとは。栄養化学の研究者である著者が文系と理系の枠を超えて、含有成分や歴史的背景から食べ物の「履歴書」を丸ごと解説する。



関西学院大学出版会

▼武久堅著『平家物語への羅針盤』（四六判・二七六頁・二二〇〇円）『平家物語』の成立過程や作者問題を親しみやすい文体でまとめ、すべての読者を魅力ある時空間へと誘う羅針盤的な文学旅案内。



▼鈴木謙介・藤岡達磨編著『グローバルゼーションとモビリティー流動化する社会を生きる人びとの社会学』（A5判・一六八頁・二二〇〇円）コロナ禍までに何か起きていたのか。現在の世界を以前からの「延長」として捉え、コロナ禍のモビリティの作動を問う論考集。

▼大隅要著 K・G・りぶれつとNo.56『外国人留学生のための就職活動とキャリアー日本就業の意義と可能性』（A5判・一三四頁・一五四〇円）外国人留学生の就職支援に15年以上たざさわつてきた著者による実践的なテキスト。就活日本語テスト、自分研究や企業研究のためのワークシートなど、著者の経験と工夫が詰まった一冊。

九州大学出版会

▼古川裕朗著『ドイツ映画史の基礎概念―新世紀のディアスポラ』（A5判・二八二頁・三五二〇円）「移民」「ナチ」「東西ドイツ」を扱った21世紀以降のドイツ映画賞受賞作について、その歴史の変容を基礎概念の提示と共に明らかにする。現代ドイツ映画史への手引書。

▼松田康雄著『楽しむ初等数学』（A5判・一九二頁・二二〇〇円）いかに考え、いかに解くか。数論、初等幾何学、2次曲線などの数理を、初等数学（高校数学 $+\alpha$ ）で考え、楽しみながら解く。

▼深川博史・水野敦子編著『日韓における外国人労働者の受入れ―制度改革と農業分野の対応』（A5判・二九四頁・五二八〇円）コロナ後を見据え、外国人労働者と協働する社会の構築に向けて、課題と克服の過程を隣国の経験から学ぶ。

▼森平雅彦・辻野裕紀・波瀾剛・元兼正浩編『日韓の交流と共生―多様性の過去・現在・未来』（A5判・二四四頁・五二八〇円）歴史、教育、言論・文学など多様な観点から日韓交流の「現場」に迫り、相互理解への道を展望する。

編集後記

▼一三二号は、「学術書を読み継ぐ」という特集のもと、出版文化の研究者、出版社勤務の編集者、図書館員、そして古書店店主という、異なる立場の四名にご執筆いただいた。本特集でとりあげるのは、著者や新しい本づくりを担う第一走者ではなく、他者によって刊行された本を扱う、いわば本のリレーの第二走者以降の担い手たちである。この世の中に数多ある本をよみがえらせて、ふたたび新しい読者に届けようとする、出版文化に欠かすことのできない営みに注目する。

▼執筆者の一人、柴野京子氏の論考の、「出版が生来もつしぶとい柔軟性」という一節に目が留まる。また、編集者の園部雅一氏は、プロジェクトの実現に奔走するなか、様々な協力を得ることで「良書は一人歩きする」という言葉を実感したという。しぶとく、柔軟で、時折一人で歩きます。流行るとつぜん数が増えるもする、この不思議な力！もしかすると、走者と思っていた私たちは、本に操られた乗り物なのかもしれない。ともあれ、新旧入り乱れてサーキットはまわり、一冊の本は未来の読者に渡されてゆく。

- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太洋社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) 東京弘報社 〒101-0051 東京都千代田区猿楽町1-2-1
TEL 03-3291-1771
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15
TEL 03-3632-0801
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- 図書印刷(株) 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36
TEL 03-5843-9700 <https://www.tosho.co.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博報堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤原印刷(株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平文社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠製本(株) 〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5
TEL 03-3967-3952 <http://www.makoto-seihon.com>
- 名鉄局印刷(株) 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-13-23
TEL 052-561-3272 <http://www.meitetsukyoku.co.jp>
- (株) 遊文舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

- (株)朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 亜細亜印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株)アベル社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル301
TEL 03-6256-8133 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
TEL 06-6494-1122 <http://www.amain.co.jp>
- (株)ALE 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株)桑川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- ㈱クリムゾンインタラクティブジャパン 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F
TEL 03-3525-8001 <https://www.crimsonjapan.co.jp>
- 港北メディアサービス(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- ㈱コングレゴロパルコミュニケーション 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング5階
TEL 03-3510-3750 <https://www.congre-gc.co.jp>
- 三松堂(株) 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
TEL 03-6823-5360 <https://www.sanshodo.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8
TEL 03-3803-3131 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株)渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株)眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株)精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766
TEL 075-255-2288 <https://www.soiei-pb.co.jp>
-

ポストコロナの感染症対策への、確かな法的視座を提供

公衆衛生法 感染症編

大林啓吾著

一連の感染症対策の基本法となる感染症法や新型インフルエンザ特措法、検疫法、予防接種法などを中心に、沿革および基本知識から実際の運用のあり方まで体系的に解説。 2860円

裁量型課徴金制度施行後の独占禁止法の全体像を示す基本書

独占禁止法【第10版】

村上政博著

国際標準の競争法へと変貌する独禁法の実体ルールおよび手続を、判審決のみで解説した実務型基本書。令和元年改正法を施行するための運用基準などについても詳説した最新版。 5500円

中国情報法の“光”と“影”から、デジタル社会の課題をあぶり出す

中国のデジタル戦略と法

中国情報法の現在地と
デジタル社会のゆくえ

石本茂彦・松尾剛行・森脇章編 中国法やその実務に精通した著者陣の解説で、欧州や日本と全く異なる「国家安全」を頂点に紐づけられた情報法のあり方が浮かび上がる。 4180円

契約社会アメリカを理解するための基本書、最新版！

アメリカ契約法【第3版】《アメリカ法ベシックス1》

樋口範雄著

契約のルールについて有名なケースを使って具体的に説明し、アメリカ法の特徴を明示した定評ある概説書。21世紀における3つのトピックを取り上げ、実像にせまる最新版。 4180円

条文の趣旨・内容・実務への影響がこの1冊でわかる！

実務解説 改正物権法

中込一洋著

所有者不明土地をめぐるトラブル予防や早期解決をめざし、審議会部会資料・会議録等を丁寧に読み込んだ実務に役立つ逐条解説書。令和3年改正のすべてがわかる決定版。 3850円

第一人者による論文集、その集大成となる最終巻！

債権譲渡と民法改正

《債権譲渡の研究 第5巻》

池田真朗著

約半世紀にわたり債権譲渡の研究で学界をリードしてきた著者による債務引受・契約譲渡論、そして反響を呼んだ「行動立法学序説」等を収録。民法学の進むべき道とは。 10780円

契約法および消費者法の現代的テーマにせまる論文集！

民法・消費者法理論の展開

《後藤卷則先生古稀祝賀論文集》

【編集委員】都筑満雄・白石大・根本尚徳・前田太郎・山城一真 消費者、契約、救済、民法理論における諸問題について、第一線で活躍する研究者・実務家 33名が斬新かつ多角的にアプローチ。さらなる学問的発展をめざした、実り豊かな注目の一冊。 13200円



弘文堂

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 ©表示価格は税込

Tel. 03-3294-4801 / Fax. 03-3294-7034 <https://www.koubundou.co.jp/>

●北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

●弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

●東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

●流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

●聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

●慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

●専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

●玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

●中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

●東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

●東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町5番
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

●法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

●武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

●武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

●明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-591-9254

●早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

●関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

●名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

●名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

●京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

●大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

●関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

●関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

●九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

●大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

【発行所】

一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail : mail@ajup-net.com
URL : <https://www.ajup-net.com/>

【表紙デザイン】 奥定泰之

【表紙写真】

しぶとく、柔軟で、
時折一人で歩きだす
不思議な力!

photo : Markus Pfaff / shutterstock.com



*本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードできます

大学出版 132号 (2022年秋)

2022年11月30日発行

頒価 100円 (千共)